話合いから行動へ

前進示した第四回母親大会

第四回日本母親大会はさる八月三日の東京分科会のあとをうけて二十三、四の両日、東京神田の専修大学、千駄ガ谷の都体育館を会場にして開かれた。大牟田市からも十名が参加、三池主婦会からは大石知恵子さん（港）中山ハツミさん（三）上田八重野さん（港）三浦美智子さん（製）の四名が参加した。今年は沖縄の代表三名を加えて全国から一万人が参加したが、大会はとくに切迫した問題となつている勤務評定について論議され、民主主義を破壊し子供を不幸におとし入れる勤務評定にはお母さんが先頭に立つて反対運動をつづけようと申し合わせ、「〃話しあいから行動へ〃を合言葉として、子供をしあわせにするため立ちあがりましょう」の宣言を発表した

泣きごとではダメ

全国集会は第一日分科会、第二日全体集会でひらかれた。分科会は(1)学校教育(2)家庭教育(3)社会環境(4)健康(5)家庭(6)働らく婦人と主婦とのつながり(7)くらしにつながる政治や経済(8)教養(9)憲法(10)原水爆(11)母親運動はどうすれば伸びるかの問題別に十一の分科会三十会場にわかれてもたれた。そこで共通して出されたことは、お母さんの周囲で身近におこつている沢山の問題はどの一つをとつてみても、国の政治の方向とは無縁ではないということであり、問題解決のためには泣きごとをのべあつていては解決しないことがあきらかにされた。

第二日の全体集会は都体育館でおこなわれ、国際民婦連副会長ギャンチャンド夫人（インド）ほかの外国代表も参加した。集会は分科会報告、全体討論をはぶいて事実を知りあい、深めあう内容の行事が試みられた。午前中は久保山すずさん、長崎の被爆者渡辺千恵子さん、沖縄代表仲本栄子さんから特別報告として、貴重な経験が話された。この中ではとくに渡辺さんの「被爆後廃人同様の生活をしていた私を救つてくれたのは、母親の愛情と、母親大会のみなさんの原水爆禁止運動です」との訴えは異常な感動をよんだ。午後から軍事評論家林克也氏の講演「平和を守るために」パネル討論「子供を守るために」（助言者福島要一氏）で、原子戦争の危機と学校教育の現状をつつこんで明らかにした。このあと集会は大会事務局長山下正子さんから分科会のまとめと今後の運動のすすめ方についての報告があり、ついで大会宣言を採択したが、さいごに松川事件被告とその家族から事件の真相をきき、百里基地の小川町々長激励団の派遣などをきめた。

宣　言

全国のみなさん

私たちはここに第四回日本母親大会を開き、沖縄の仲間も加えて一〇、〇〇〇人があいつどいました。母親の新しい歴史の一頁を飾つた第一回大会以来足どりをたしかめ、明日からのあゆみを誓いあつたのです。おしころされた母のおもい、台所のつぶやきは今や全国にこだまする力強い叫びとなり数多い母親グループの誕生、保育所や施設づくり、PTAの活動、年金や制度の学習、民主教育を破かいするさまざまな文教政策、とりわけ勤務評定については、深い関心をもち、何が真実かを見きわめ母の願いと意志を結集した行動を始めつつあります。

また日本の母親の手によつて始められた核兵器禁止の行動が世界の世論をつくり、今やアメリカの政府でさえ水爆実験停止の宣言をせざるを得なくなりました。

このように私たちの力が大きくなればなるほど、こうした運動に対する中傷や妨害は日まし激しさを加えています。大会で出された問題は、私たちをとりまくきびしい情勢を反映したものでした。

私たちはこの現実に生き、しかも自らの手でこの現実を少しでも変えようと努力しています。正しい判断と勇気ある行動が住みよい社会、平和な世界を築く力となります。いのちを生み、いのちを守る母親に沈黙は許されません。平和を破るどのような妨害にも屈することはできません。私たちは四年間の歩みのなかで一人々々は弱くとも、みんなが集り、みんなの手が結ばれたとき、すばらしい力になることを知りました。この力こそが世の中を動かすエネルギーであることをも学びました。

「話しあいから行動へ」をこれからのあい言葉としてたちあがりましょう。私たちの子どもをしあわせにするために。手をつなぎましょう。平和を守るために。

私たちは、一人々々がこの運動のにない手となり、あらゆる妨害とためらいをのりこえて前進することを母の名においてここに宣言いたします。

八女茶山唄

ハーエー
〽四月五月は、ねてさえさむい
　さぞや様もちや
　ねむたかろ　トコサイサイ
ハーエー
〽縁がないなら　茶山に御座れ
　茶山茶どころ
　縁どころ　トコサイサイ
ハーエー
〽茶山戻りにゃ　皆すげの笠
　どちらが
　姉やら妹やらトコサイサイ

流ちようなメロディーに哀愁をただよわせる「茶山唄」は、茶もみ唄を総称して呼ばれ、八女地方の茶山一帯に古くからつたえられてきた民謡です。昔は製茶方法も今日のように機械化でなく、いわゆる「手もみ時代」でした。五月の製茶の時期がくると茶つみ女を雇つたり、また茶師をいれさかんな製造されたもので、農家の仕事のなかでは一番明るく賑かなものだつたといわれます。

さいきんでは製茶技術もすすみ機械化されて、この古い手もみ方法もまれになり、そのため茶山唄もほとんどきけなくなりました。

老人が荒むしろの上で茶をもみながら、お得意の美声でうたえば「トコサイサイ」と……もみ手たちが一齊にはやすといつた風景もみられなくなつたのです。この唄をうたえるのは中年層以上で、若い人びとはラジオでおぼえた流行歌を口ずさむといつた程度ですがこれも時勢のいたすところ仕方ありますまい。

ところで八女茶のおこりについて、民俗研究家の梅林新市氏はつぎのようにのべておられます。

珍宝岩とよばれる奇岩怪石でしられる黒木町笠原霊厳寺の周端（一説に端石）和尚が中国から持参して植えたのが、今日の八女茶となつた。わが国のお茶の歴史は、博多の聖福寺をひらいた栄西禅師が、そ【中国】からもち帰つた種子を背振山に植えたのが始まりで（建久六年・一一九五年）霊厳寺の由来記によると周端がこの地に移したのは、それより二百年後、応永年間となつている。

当時笠原村鹿子尾の郷士松尾太郎五郎久家が霊厳寺建立に寄与したが、周端はこの久家に茶の栽培と製茶の技を伝授したというからかれこれ五百三十年の歴史があるわけである。

八女茶は黒木、大淵、矢部（矢部川流域）や北川内、星野（星野川沿い）が主産地で、とくにこのなかでも星野でとれる玉露は香り甘味など、その品質のすぐれた点では宇治、静岡の比でないと評価されています。

初夏の日ざしをあびながら、紺がすり、あかねダスキ、いきなネエさんかぶりの菅笠姿でうたう若い娘さんたち。のどかな尺八の吹奏に和して涼風と流れくる茶山うたなど……

素朴な生活のなかで、労働力の源泉となり力づよく謳歌された当時をしのび、いつまでも郷土のうたとして愛唱されたいものだといのるものです。

やました

勤評問題分科会

母の意見をもつと聞いて

分科会はどの会場でも、お母さんたちがそれぞれの地方からかかえてきた多くの問題をめぐつて率直な意見をだしあい、熱心に討論しあつた。とくに勤務評定については、それが民主教育を破壊し子供を不幸におとしいれるものであるとして、活発に論議がつくされた。特設された「PTAと勤務評定」の分科会では切迫したその勤務評定のうずをどうして払いのけていくかがくりかえし話合われた。反面「勤務評定に反対しなければならないと思うが、教委側からだされる資料を読むと、それももつともだと思う。勤務評定の本質を知らないのでよろめいている父母がたくさんいる」（青森）こともだされた。実施を目前にして、反対運動を拡げていくためには父母と教師の双方の側からだされた。しかし現状は「勤務評定について知ろうと学校やPTAの会合で勤評を口にすると、それは政治的であるとの理由で止められてしまう状態にある。「勤評に反対する者はPTAの役員に選ばない」（東京・江戸川）ときめたところや「勤評は政治的だからPTAは関係しないこと、会合ではとりあげないと役員が申合せた」（大阪）ところさえでている。そして「PTAは中立であるべきだ」（甲府）と父母は知ることを押えられ、教師は父母とつながることを妨害されているのである。

知ることは武器だ

それはなぜだろうか、この疑問に助言者の重松敬一氏（教育評論家）はつぎのようにこたえた。「知ろうとすることは父母の一ばん大きな武器だ。ところがそれを知られることは勤評を実施する上に障害がおきてくるからだ。そして父母と先生が仲よくすることをさこうとするからである。教育委員の任命制の施行によつて、父母が教育について発言する場合はPTAしかなくなつてしまつているが、そのPTAはボスたちによつて牛耳られ、父母たちはその場所さえもなくしかけている。PTAの機構と運営を健全にすることと勤務評定反対の動きとを結びつけていかなければなるまい」

勤務評定が子供たちを不幸にし、日本の民主主義をも危機に追いこむものであるとわかつた以上、勤務評定について父母は教師たちの先頭に立つて反対運動をつづけていかなければならないこともわかつてきた。しかし「それを打出すと母親は尻ごみする」（横浜）現状をどう打ちやぶつていくか。「勤務評定はそれだけで是非を論じていてはだめだ。校長の管理職手当の問題、新しく出された教育課程の内容、もつと歴史の流れの中で考えなければその本質は理解されない」（北海道）しかも父母の中で日教組にむけた批判の中に「子供を放りなげて労働者のまねをしてストをやるのはどうか」という内容が含まれているが、「教育は現時点でとらえられるものではない。もつと長い将来と合せ考えるなら、一日や二日のストで子供たちに小さな不幸を味わせたとしても、大きな幸福のためにはたたかわなければならない」（和歌山）との意見もだされた。

冷却期間をおけ

各府県の教委側は現在教組との話合いを拒否しているが、話合いの拒否はすでに民主主義を無視したものであることも強く批判された。しかも一方ではさかんに教委側は勤務評定のPRを強力につづけ実施を強行しようとしているが、沢山反対の声があがつているのになぜ実施しようとするのか、勤務評定の本質をはつきりさせ、当面冷却期間をおいて話合うよう母親たちは決議したのである【KNA】

映画

ドラマに仕組んだ世界一周観光映画

80日間世界一周

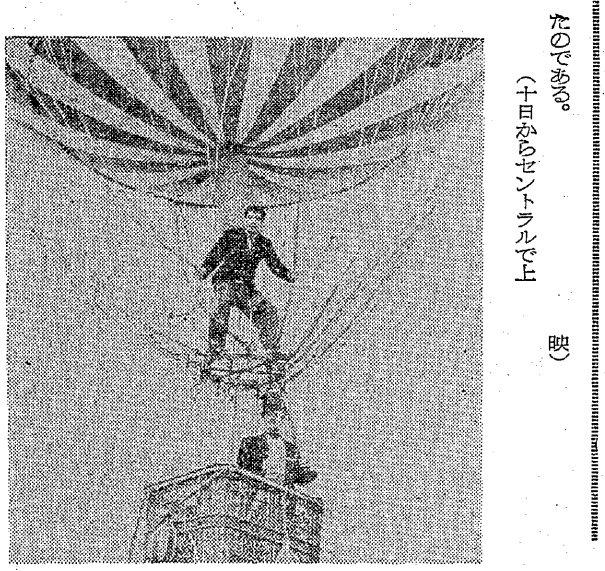
舞台はロンドン。一八七二年、ヴイクトリア朝の爛熟期。「社会改良クラブ」では普段となにひとつかわることなく、室の一隅でフオツグ氏をまじえてトランプがおこなわれていた。その中の一人のイングランド銀行の頭取だけが銀行の金が五万五千ポンドも白昼堂々と盗み取られた手前、みんなにいじめられて苦りきつている。話題は「世界は広いのだから盗んだ金はどこでも隠される」というところまで発展。「いやそれは百年前のこと、今は地球も狭くなつています、三月もあれば世界一周できる世です」と頭取がいう。「そんなにもかかりません。八十日キツカリあれば十分です」とフオツグ氏が異議をはさんだ。この一言がやがて売り言葉に買い言葉となり、今や互いに自説をゆずらず、ことのなりゆきから彼は銀行の預金二万ポンドを賭けても、八十日間で世界を一周してみせると一同の人に断言してしまつた。

氏がまず足をとめたのが花のパリで、旅行案内所できけば、トンネルが雪崩でやられ、マルセーユまでの鉄道は一週間は開通の見込みがないという。氏をおとずれた第一回のピンチである。その時、彼ら一行の行くさきざきの旅行手続案内をしていたフランス人が軽気球の絵をさし出し「私は今まで六十三回も気球に乗つて千米の高さまで上つたことがあります」

フオツグ氏は手のきれるような札束をだしてこの気球を買いとつた。気球は空高くあがつてゆく。

地上に降りてみて彼らは仰天。フランスと思いきやスペインだつたのである。

（十日からセントラルで上映）



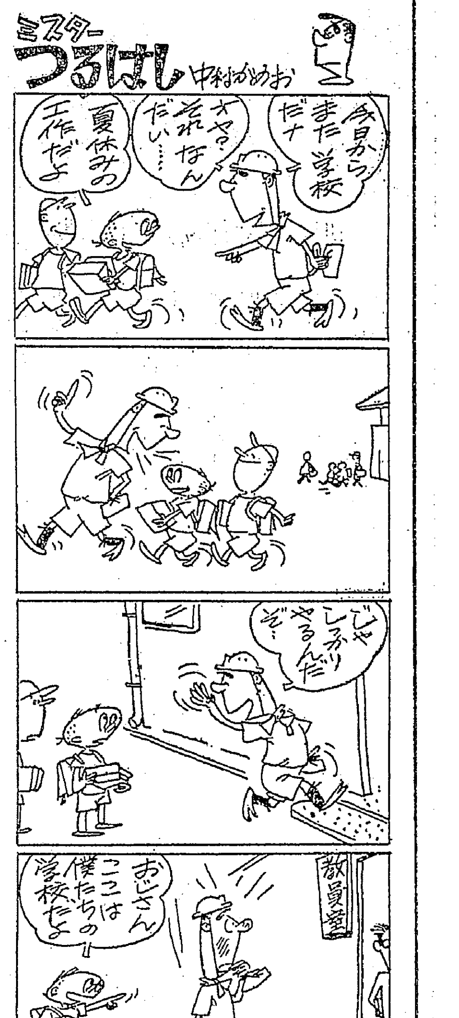
【読　書】

宮島尚史他著

「実践労働法」

具体的な問題で解説

労働組合のなかで、組合のひとたちが日常当面する問題のなかにはほとんどといつてよいほど法律的問題がからまつている。しかもこんにちの労働運動の段階では、このような具体的紛争のなかにふくまれる法律問題についての法解釈論は、労働組合としての闘いの組み方、いわば闘争戦術の方向を定めるうえにきわめて重要な影響をおよぼしている。しかるに過去の闘争の点検は、組合組織のなかでこれまで十分におこなわれていなかつた。そこで、このような欠陥を克服する試みとして組合の法規対策関係者、労働法学者および労働弁護士の三者が研究会をもち、各組合が過去にたたかつた問題を法律面に即して検討をつづけ、まとめたのが本書である。したがつて本書は「問題」の法律的範囲、限界とそれを乗りこえていく方向と必要性を指示し、「問題」の法律的、戦術的とらえ方を提出している。（青木書店刊・三〇〇頁・三八〇円）


ミスターつるはし
中村かめお
今日からまた学校だナ
オヤ？それなんだい……
夏休みの工作だよ
じゃしっかりやるんだぞ
教員室
おじさんここは僕たちの学校だよ

◇主婦のノート◇

塩かげん

○ヒビの入つた玉子をゆでるとき、塩を一つまみ入れると中身が流れださなくなります。

○生魚を洗うときには、水一升に茶サジ山一ぱいのわりに塩水を使うと、魚の肉がしまり、味が一そうよくなります。

○瀬戸物、ゾウゲ、金物などの汚れをとるとき、塩か生塩と酢をまぜたもので磨いてから熱湯で洗うときれいになります。

○洗たく物にのりづけするとき塩をすこしまぜると美しいツヤがでます。

○瀬戸引きナベの焦げつきは、塩水を入れて一、二時間おき、それから弱火にかけてわかすと落ちます。

○サツマイモの皮むきで手がかゆくなつたら塩でもみ洗いするとなおります。

秋の栄養メモ

さわやかな気候の訪れは、おとろえていた食慾を活発にし、同時にマツタケ、サンマなどが食膳を賑わして味覚の秋をたんのうさせるので食事がいつそうおいしくなります。そのうえ秋は運動のシーズンとあれば、夏ヤセ回復と子供の偏食をなおすには絶好の時期といえます。そのためには食事のシュンの魚類、豆類をうんと利用してタン白質と脂肪を、野菜、果物類でビタミンやミネラルを十分補給することが大切。おいしいからといつて、さつまいもや栗などを食べすぎて糖質過多にならぬよう。食品の組合せを工夫してバランスのとれた栄養をとることが必要です。